

1 2 総合的な学習の時間における環境教育の学習指導事例（第5学年）

環境教育の視点とのかかわり

総合的な学習の時間では、教科等の教育活動の成果を活用しつつ、より総合的、相互関連的なアプローチをとることが求められる。環境教育を進めるに当たっては、その上に立って、児童の環境に対する豊かな感受性を育てることが大切である。本事例は、次のような視点をもって取り組んだ実践である。

- ・体験を重視すること  
環境問題の現状やその原因について、単に知識として知っているということだけではなく、実際の行動に結び付けるには、課題発見、分析、情報収集・活用などの能力が求められる。そのためには、児童自ら体験し、感じ、分かるというプロセスを意識的に取り込んだ。
- ・地域に根ざし、地域から広がるものであること  
環境教育の中心となるのは、日々の生活の場としての、多様性をもったそれぞれの地域である。地域の素材や人材、ネットワークなどの資源を掘り起こし、積極的に活用していった。
- ・身近な環境に積極的にかかわること  
自分たちに直結した問題を見出し、自ら考え、判断し、よりよい環境づくりや環境の保全に配慮した行動がとれる能力や態度を育成することを重視し、身近な自然や社会、人々とかかわる多様な活動を積極的に展開することとした。

1 単元名 田んぼからのおくりもの

2 単元について

(1) 単元設定の趣旨

本校は、自然環境に恵まれた地域にあるとはいえ、田植えをしたり、自然からの産物を使ってものを作ったりといったことを体験している児童は極めて少ない。見たり聞いたりしているものの、直接体験のない児童がほとんどである。また、環境の大切さについての認識もしっかりと持っているとは言えない現状である。

そこで、児童の身近な環境に積極的にかかわらせることにより、環境についての考え方を見直し、大切にしていこうという心と態度の育成をねらいに、この単元を設定した。

学習活動を進めるに当たっては、地域の人材を活用するとともに、児童の興味・関心に応じた体験をできるだけ取り入れ、身近な環境や保全についての考えを一層深めていきたい。

(2) 各教科等との関連

<国語>

- 「わらぐつの中の神様」（10月）
- 人物の人柄や情景を叙述に即して読む。
  - 「地球について考えよう」（11月）
  - 環境について自分たちができることという課題に関して、自分の立場を明確にし、積極的に意見を話し合う。

<理科>

- 「発芽と成長」（5月）
- 植物を育て、植物の発芽、成長とその条件についての見方や考え方を養う。
  - 「実のでき方」（9月）
  - 結実の様子と、これらにかかわる条件に目を向けながら調べ、生命を尊重する態度を育てるとともに、結実とその条件についての見方や考え方を養う。

<家庭科>

- 「作っておいしく食べよう」（10月）
- ごはんの米の違いやその特徴、ごはんの作り方が分かり、能率的に調理できるようにする。

総合的な学習の時間  
(〇〇タイム)  
\*農業体験を取り入れた学習活動

- 「米づくりに挑戦」  
(4月～6月)
- 米づくりの歴史
  - 農機具の歴史
  - 田植え体験

- 「米博士になろう」  
(6～9月)
- 環境と土、水、農薬肥料、生き物の調査
  - 稲の管理と観察

- 「田んぼからのおくりもの」  
(10月～2月)
- 米、わら、もみなどを使ったくらしの工夫
  - 環境保全への心と態度の育成

<社会>

- 「米づくりのさかんな庄内平野」（5月）
- 庄内平野の米づくりについて稲作に従事している人々の工夫や努力を調べ、分かったことを自分なりの言葉で表現する。
  - 「わたしたちの生活と自然保護」（2月）
  - 森林資源の働きについて調べ、環境保全のために努力している人々の工夫や努力を理解し、一人一人の協力が必要なことに気付くとともに、国土に対する愛情をもつ。

<道徳>

- 「チョモランマ清掃登山」（5月）
- 自然の偉大さや大切さを知り、自然環境と人とかかわりについて考え、自然環境をよくしようとする態度を育てる。
  - 「瀬戸内オリーブ基金」（10月）
  - 自然はすべての生き物の生活の場であることを理解し、その環境を守るために自分のできることを進んで実行する心情を育てる。

3 単元の目標

- 自校水田から収穫された米、わら、もみ、ぬかを使って生活に生かせるものを考え、実際に作る、食べる、使うことの体験を通して、問題を解決する資質や能力を育てる。
- 物を作るための情報の集め方、作り方、まとめ方、表現の仕方などを身に付け、問題解決に向けての主体的、創造的な態度を育成する。
- 身近な環境に積極的にかかわる活動を通して、環境保全への心と態度を育成する。

4 単元の活動計画・評価計画

(1) 単元の評価規準

観 点	評 価 規 準
行動力	目的に向かって、みんなと協力して進んで行動することができる。
問題解決力	見通しをもって、進んで問題解決のために行動することができる。
表現力	考えたことや分かったことを分かりやすくまとめ、発表することができる。
情報活用力	目的に応じて進んで取材や調べ活動を行うことができる。

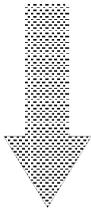
(2) 単元の活動計画・評価計画の概要「田んぼからのおくりもの」(29時間)

〈活動の流れ〉

〈主な活動内容〉

〈評価計画〉

ふれる



○稲刈りをしよう。

(1～3/29時間)

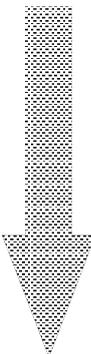
- ・地域の方やお家の人にも見に来てもらおう。
- ・けがに気を付けよう。
- ・お米をたくさん収穫しよう。
- ・わらもとっておこう。
- ・わっ、ねずみがいたぞ。

- ・みんなと協力して、自分から進んで行動することができる。
- (行動力)



(4～12/29時間)

つかむ



○田んぼからのおくりもの(自然の恵み)について考えよう。ただ、お米を食べるだけでなく、他に生活に役立つものを作れないかな?

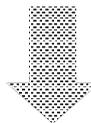
- ・お米を粉にして、おせんべいやおだんごが作れないかな。
- ・わらを使って、こもやなわを編んで何か役立てられないかな。
- ・わらから紙ができるらしいよ。

- ・田から収穫したものについて、関心をもち、その生かし方について見通しをもって考えることができる。
  - ・自分の目的にそって、進んで取材や調べ活動を行うことができる。
- (問題解決力)  
(情報活用力)



(13～19/29時間)

調べる  
まとめる



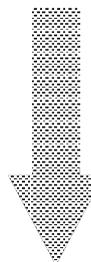
実際に作って食べたり、利用したりしてみよう。

- ・作り方を調べ、準備をしよう。
- ・いろいろ工夫して作ってみよう。
- ・作ったら食べてみよう。
- ・作ったものを役立ててみよう。

- ・目的に合った方法を考え、みんなと協力して、進んで材料などを準備したり行動したりすることができる。
  - ・課題に向かって、進んで見通しをもって解決するための行動を行うことができる。
- (行動力)  
(問題解決力)

(20～25/29時間)

広める



自然の恵みのすばらしさと、その利用についてみんなに伝えよう。

- ・みんなで作ったことを発表し合おう。
- ・わらからこんなものができたよ。
- ・お米を使って楽しいものができたよ。
- ・わらは環境にやさしいよ。
- ・身近な環境を守るために、こんな工夫をしたよ。

- ・調べたり体験したりして分かったことを、分かりやすくまとめ、発表することができる。
  - ・目的に向かって、みんなと協力して行動することができる。
- (表現力)  
(行動力)

(26～29/29時間)

振り返る

まとめをしよう。

- ・自然と環境保全についてまとめよう。
- ・自己評価カードにまとめよう。
- ・掲示して学校みんなにも紹介しよう。

- ・今までの自分の活動をふり振り返り、反省し、学習のまとめをすることができる。
- (自己評価)

(3) 本時の活動 (16 / 29)

ア 本時の目標

- 自らの課題について、みんなと協力して進んで行動することができる。(行動力)
- 見通しをもって、進んで問題を解決するために行動することができる。(問題解決力)

イ 展開

・主な活動 ☆指導上の留意点 ★教師の支援 ◎評価

竹を使って炊飯 (米グループ1) 中庭	米の粉 (米グループ2) 家庭科準備室	縄・こも作り (わらグループ1) 裏庭	はがき・しおり (わらグループ2) 家庭科室	マスコット作り (もみ・ぬかグループ) 家庭科準備室
---------------------------	---------------------------	---------------------------	------------------------------	----------------------------------

- ☆集合し、本日の活動内容を確認する。
- ☆活動内容を掲示しておき、活動の意欲付けをする。

収穫した物を使って、生活に生かせる物を作ってみよう。

- ☆使う器具、米やわら、もみなどの収穫物を大切にすることをもって取り組ませるようにする。
- ☆安全面への配慮を呼びかける。
- ☆調べた作り方を基に、本日の活動予定について、グループごとに話し合わせる。
- ☆指導して下さるゲストティーチャー(地域の方々)への接し方に気を付けさせる。
- ☆グループごとに活動に取り掛かる。

- |   |   |  |  |  |
|---|---|--|--|--|
| <ul style="list-style-type: none"> <li>・竹の飯ごうを準備する。</li> <li>・燃料の竹炭を準備する。</li> <li>・米の準備をする。</li> <li>・炊飯に取り掛かる。</li> </ul> | <ul style="list-style-type: none"> <li>・洗った米を準備する。</li> <li>・石臼の用意をする。</li> <li>・袋を用意する。</li> <li>・粉づくりに取り掛かる。</li> </ul> | <ul style="list-style-type: none"> <li>・わらをきれいにする。</li> <li>・わらをそろえる。</li> <li>・用具の準備をする。</li> <li>・作業に取り掛かる。</li> </ul> | <ul style="list-style-type: none"> <li>・わらをきれいにする。</li> <li>・わらを切る。</li> <li>・煮詰める。</li> </ul> | <ul style="list-style-type: none"> <li>・使う材料の準備をする。</li> <li>・型紙をもとに布の準備をする。</li> <li>・縫う作業をする。</li> </ul> |
|---|---|--|--|--|

- ☆ゲストティーチャー(地域の方々)の指導を受けながら作業を進める。
- ◎見通しをもって、進んで問題を解決するために行動しているか。

竹で米を炊く。



縄、こもを編む。



縫って、もみ、ぬかを入れる。



石臼で米をひく。



釜でわらを煮る。



- ◎自らの課題について、みんなと協力して作業を進めているか。
- ☆自然の材料を丁寧に扱うよう注意させる。

- |  |   |   |  |   |
|--|---|---|--|---|
| <ul style="list-style-type: none"> <li>★加熱時間に気を付けさせる。</li> <li>★火傷など火の取り扱いに気を付けさせる。</li> <li>・できたら食べてみよう。</li> </ul> | <ul style="list-style-type: none"> <li>★石臼の回し方のコツをゲストティーチャーによく教わるよう指示する。</li> <li>・粉を観察し、袋に入れ保管する。</li> </ul> | <ul style="list-style-type: none"> <li>★編み方についての話をよく聞くよう指示する。</li> <li>・できあがったものを見せ合い保管する。</li> </ul> | <ul style="list-style-type: none"> <li>★火傷に注意させる。</li> <li>★バルブを木杵のすみまで流すと、形がよくなることを助言する。</li> <li>・きちんと並べて乾かす。</li> </ul> | <ul style="list-style-type: none"> <li>★安全面での注意をする。</li> <li>・もみなどを入れ、完成させる。</li> </ul> |
|--|---|---|--|---|

- ☆全員集合し、グループの活動を報告し合う。
- ☆活動を振り返り、竹や炭、米、わら、もみ、ぬかなどの自然の産物と、身近な環境について考えさせる。
- ☆身近な環境と私たちの生活との関係についても考えさせる。
- ☆次時の活動予定を確認する。

5 児童の発表から（身近な環境を生かすこと。そして、守ること。）



〈米グループ〉

- 学校の竹林の竹を使って、炊飯して食べたら、香りもよくとてもおいしかった。
- 私たちの身近に、役に立っている自然（環境）ってたくさんあることに気付いた。
- 生活の中で、身近な環境を無駄にしないようにしていきたい。



〈わらグループ〉

- 収穫したわらでこもを編み、冬を迎える虫さんのすみかを作ってあげたら、とてもいい気持ちになった。
- 編み方を覚えたので、また作りたい。そして、他にも利用したい。
- 縄を編んだら、意外に丈夫でいろいろなものに使えた。とても便利なことが分かった。
- わらがいろいろなことに使えることが分かった。
- 身近にあるものが、工夫することによって、とても役に立つものに変身することに気付いた。
- 手をかければかけるほど、よいものができることが分かった。
- わらから紙ができて、本当にびっくりした。
- はがきやしおりにして、さっそく使ってみよう。
- 私たちの身近な環境には、大切にしたいものがたくさんあることに気付いた。
- わらで作ったしおりを近くの施設にプレゼントしたい。



〈マスコットグループ〉

- もみを入れて、かわいいマスコットが完成した。触った感じがとてもいいです。弟や妹にあげたいと思う。
- 楽しいお手玉を使って、家族で遊びたいと思います。重さや手触り音とかがとてもいい感じです。
- 収穫したものをいろいろ生かせてよかった。



6 児童の変容

児童は、米作りを通して自分の身近な環境の現状を知り、その課題と生かし方について、種まきから収穫までの間、体験を通して学んできた。土、水、肥料、害虫、農薬といった環境にかかわる内容を調べ、環境保全への思いを新たにしました。また、米を収穫した時の喜びとともに、わらやぬかなどの利用と価値についての認識も深めることができました。農業体験活動を通して、日常の食べること、ものを使うことの中で、ただ消費し捨てるだけの生活から、ものの利用と価値を考え、「大切にしよう。」という生活へと少しずつ変容が見られてきた。さらに、自分の身近に素晴らしい環境があることに気付き、守っていこうという意識の高揚も見られるようになってきた。